

投与前チェックシート

本剤の投与に際しては、患者の安全確保と適正使用のために以下の  
チェックリストを用いて患者の状態を事前に確認してください。

〈施設メモ欄〉  
患者識別情報：  
投与回：

※太枠内の□に該当する場合、本剤の投与の回避又は開始延期をご検討ください。

■ 使用対象疾患

骨転移のある去勢抵抗性・ 前立腺癌 * 外科的又は内科的去勢を行い、進 行又は再燃が確認されている	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	本剤の適応症は「骨転移のある去勢抵抗性前立腺癌」で す。それ以外の疾患への使用は適応外使用となります。他 の治療法をご検討下さい。
内臓転移	<input type="checkbox"/> 無	<input type="checkbox"/> 有	内臓転移のある前立腺癌における有効性及び安全性は確 立していません。

■ 投与基準1（投与前の血球数が以下の基準を満たしている）

初回 好中球数            ≥1,500/μL 血小板数           ≥100,000/μL ヘモグロビン      ≥10.0g/dL	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	本剤により骨髄抑制が増強するおそれがあります。 左記基準に回復するまで投与を延期し、回復を確認後 に投与を開始又は再開してください。前回投与から6 週間以内に左記基準まで回復しない場合には、投与を 中止してください。
2回目以降 好中球数            ≥1,000/μL 血小板数           ≥50,000/μL ヘモグロビン      ≥8.0g/dL	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	

■ 投与基準2（血球数異常以外について、以下の基準を満たしている）

下痢： グレード2以下 悪心： グレード2以下 嘔吐： グレード2以下 便秘： グレード2以下 その他の事象： グレード3以下	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	左記基準に回復するまで投与を延期し、回復を確認後 に投与を開始又は再開してください。 なお、グレード4のその他の事象（下痢、悪心、嘔吐、 便秘以外の事象）が7日を超えて持続する場合は投与を 中止してください。
---	-----------------------------	------------------------------	--

■ 併用薬

骨髄抑制作用を有する 抗悪性腫瘍剤の併用	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい	骨髄抑制が増強するおそれがあります。これらの薬 剤との併用における有効性及び安全性は確立してい ません。リスク・ベネフィット評価を行った上で、 慎重に投与をご判断ください。
両側に対して精巣摘出術が施行されて いない場合 内科的去勢を目的とした黄体形成 放出ホルモン作動薬等の併用	<input type="checkbox"/> はい	<input type="checkbox"/> いいえ	外科的又は内科的去勢術と併用しない場合の有効性及び 安全性は確立していません。
アピラテロン酢酸エステル 及びプレドニゾロンの併用	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい	化学療法未治療で無症候性又は軽度症候性の骨転移のある去 勢抵抗性前立腺癌患者に対する本剤とアピラテロン酢酸エス テル及びプレドニゾロンの併用投与は推奨されません。

■ その他の注意

炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性 大腸炎等）の患者	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい	本剤の主な排出経路が糞中であるため、症状を増悪させ るおそれがあります。リスク・ベネフィットを考慮し慎 重に投与してください。
脊髄圧迫のある患者、若しくは切 迫状態にある患者	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい	本剤投与前に適切な処置を行ってください。
骨折している患者	<input type="checkbox"/> いいえ	<input type="checkbox"/> はい	本剤投与前に患部を固定してください。
避妊に関する注意	放射線照射に関連した精子形成への潜在的影響が考えられるため、投与中及び投与後6カ月 間は適切な避妊を行うように指導してください。 生殖可能な年齢の患者に投与する場合には、性腺に対する影響を考慮してください。		